

アイスランド到着3日目：8月27日（水）

日の出 05:53

日の入り 21:06

キルキュバイヤルクロイストゥル～サウスシオア(南海岸)～クヴェーラゲルジ

* 本日は定期ツアーバスにて風光明媚な南海岸沿いの景勝地を巡り、クヴェーラゲルジに向かいます。

*

ツアーバス運行スケジュールは次の通りです。

Skaftafell スカフタフェットル	発	08:30
Kirkjubæjarklaustur キルキュバイヤルクロイストゥル	着/発	09:30/10:00
Vík ヴィーク	着/発	11:00/12:30
Skógar スコウガル	着/発	13:00/14:15
Seljalandsfoss セリヤランスフォス	着/発	14:45/15:15
Hvolsvöllur クヴォルスヴォットル	着/発	15:30/15:45
Hella ヘットラ	着	15:15
Selfoss セルフォス	着	16:20
Hveragerði クヴェーラゲルジ	着	16:30

バスは10時00分にキルキュバイヤルクロイストゥルを出発し、リングロードをレイキャヴィーク方面に有史最大の溶岩流出により誕生した溶岩台地エルドフロイン(Eldhraun)の中を走り、次の目的地ヴィーク(Vík)へ向かいます。ここからのルートは通称サウスシオアと呼ばれ、アイスランドではフィヨルドがない唯一の一角を走ります。見どころ豊富なドライブとなります。

ヴィーク(Vík)の正式名称はヴィーク・イー・ミールダル(Vík í Mýrdal)で、アイスランドで最南に位置する人口297人で、アイスランドの中央南部沿岸部では唯一の村。農業のほか、港を持たないにも拘わらず小さな外輪船を利用した漁業が盛ん。かつてこの地はクリフによ



て陸地から分断されていたが、1660年のカトラ火山の噴火によって現在のような地形になったということです。周辺には自然美の光景が広がり、村の東のはずれにはヨーロッパ最大の北極アジサシの繁殖地があり、ヴィークの南側は美しいビーチで、1991年、国際島嶼マガジン誌で世界の島嶼ビーチでベスト10のひとつとして紹介されました。

ホテルエッジ・ヴィーク・イー・ミールダルのあるヴィーク・ハムラル・クリフから、海面から66mまで突き出て並ぶ方尖塔上の岩柱群レイニスドラングル(Reynisdrangar)など北大西洋の素晴らしい眺望が楽しめます。

ヴィークの近くにはディルホウラエイ(Dyrhólaey)があります。英国のトロール漁

船員によって「ブローホール(額穴)」と名付けられた、巨大な穴を持つ海に突き出した雄大かつ奇怪な断崖の岬です。アイスランド語での意味は「扉の丘の島」ですが実際には島ではありません。砂浜にある部分の高さは120m。海鳥の棲息地としても知られ、アイスランド本島の最南の地点。トゥインと呼ばれる穴の部分はボートが楽に通れるほど大きい。1963年、突然の海底噴火で誕生したスルトセイ島のように、間氷期に海底火山によって出現したものと考えられています。突き出した絶壁近くには幾つかの孤立岩が見られます。4月後半ころより沿岸の険しいクリフには無数のパフィンやフルマカモメ、アジサシ、ケワタガモなどの海鳥が生息している姿が観察できます。ここは自然保護区となっており、海鳥の繁殖期間が終わる6月25日までは立ち入ることが禁じられています(パフィンは8月下旬には旅立つのでぎりぎりのタイミングとなります)。

ヴィークでランチ・ブレイクとなります。バスはホテルエッジ・ヴィーク・イー・ミールダルに停車し、1時間30分とたっぷりステイします。

バスは12時30分にヴィークを出発、無数の巨礫が散らばっている岩と砂礫の真っ黒な地帯スコウガサンズルを通して、30分の所要でスコウガル(Skógar)に到着します。



南部沿岸からほんの2～3キロのところ、リングロード沿いにある村でアイスランドでも有数の充実さを持つ民族博物館があります。息を飲むような様相のスコウガフォス(Skógafoss)の滝、雪を被った二つの氷河の眺めがこの村を訪れる目的です。スコウガルは西のパート(Ytri-Skógar)と東のパート(Eystri-Skógar)に分けられ、通常スコウガルというときは西のパートを指し、スコウガアウ(Skógá)とクヴェルンアウ(Kverná)の二つの川の間に位置し、ここには1890年に遡る古い農家と教会があります。スコウガルの歴史は古く、ここにヴァイキングのスラシ・ソウロウルブソンが定住をした900年頃の定住の時代に遡ります。スラシがスコウガフォスの滝の裏手にある洞窟に金がたっぷり詰まった箱を隠したとの言伝えが残っています。

スコウガフォスは高さ60m、アイスランドでも最も印象に残る滝に数えられています。山岳地帯フィムヴォルズハウルスに源を發するスコウガアウ川(Skogaá)には20もの滝があるがその最下流にある滝となります。スコウガアウ川に沿って小道があり、他の滝を求めて歩く事ができます。この小道はエイヤフィヤットラヨークトル(Eyjafjallajökull)とミールダルスヨークトル(Mýrdalsjökull)のふたつの氷河に挟まれた峠フィムヴォルズハウルス(Fimmvörðuhals)を横切って、美しいソウルスモルク自然保護区(Þórsmörk)まで続いています。スコウガフォスの滝からソウルスモルクまでの距離はほぼ10kmありますので、今回のハイキングは不可能です。



スコウガル民族博物館はアイスランドの歴史を知るには必見。6000点を超える文化遺物やいろんなタイプの昔の住居を見学することが出来ます。芝土の古い農家があって、昔のアイスランドの生活を体験できるようになっています。



スコウガフォス(Skógafoss)はスコウガアウ川を渡って直ぐ左に少し入ったところにあります。アイスランドでも最も印象に残る高さ60mの滝で、山岳地帯フィムヴォルズハウルスに源を發するスコウガアウ川には20もの滝がありますがその最下流にある滝です。スコウガフォスの滝見学などのためにここには1時間強滞在します。

バスはリングロードを更に西に30kmほど進み、30分の所要でリングロード沿いの右手にあるセリヤランド(Seljaland)と云うファームに到着します。



ここでもバスは30分停車し、セリヤランスアウ川から流れ落ちる、幅は細いが落差40mの絵のように美しい滝セリヤランスフォス(Seljalandsfoss)を見学します。道筋の丘陵に、鉛筆形状の岩塔を持つ広い範囲で大小の滝がクリフの頂上から流れ落ちるセリヤランスフォスの滝と周辺の奇岩と黒玄武岩の鉱柱の珍しい光景を見学します。細い別れ滝がある小路が滝となって流れ落ちる崖の底部にあり、滝の裏側を歩くことができます。この種の滝はここだけ。

この後、バスは氷河を源にする大河マルカルフリョット(Markarfljót)に架かる橋を渡って、クエイヤヒャーラヨークトル氷河の麓沿いに南部沿岸を走ります。この川はエイヤフィヤットラヨークトル(Eyjafjallajökull)、ミールダルスヨークトル(Mýrdalsjökull)、トルファヨークトル(Torfajökull)、ティンダフィヤットラヨークトル(Tindafjallajökull)の4つの氷河を水源としています。

この辺りの見ものは、南アイスランドで最も高いエイヤフィヤットラヨークトル(Eyjafjallajökull)、3～4km幅のクレーターを持つ氷河。「島の氷河山」の意味を持つ海拔1,666mの氷河火山でアイスランドでは8番目の標高。南沿岸部の沖合に浮かぶ群島ヴェストマンナヤイルが一望できることからこの名前が付けられました。山塊は数千年間も続いた噴火の結果であることがはっきりと見て取れ、氷河期中期から完新世にかけて頻発した噴火によって出現したものです。氷河はほぼ100km²の地域に広がっています。3～4km幅の大きなクレーターを持っていることからアイスランド有史以降において何度かの噴火を繰り返していたものと考えられています。1612年と1812年～1823年に起きた2回の噴火だけは記録に残されていて、この2回の噴火の際にはエイヤフィヨットル山とフリョットスフリズ斜面の間の低地帯に溶けた氷河の氷が大量に流失、大洪水をもたらし、結果として大量の降灰と共に膨大な損害をもたらしています。19世紀の終わりごろには地震活動が頻発し、地割れから洩れ噴き出るガスがはっきりと観測されたと記録されています。頂上の氷冠の面積はアイスランドで5番目の広さ。北側の斜面の麓に向かって急勾配で流れ落ちるギグヨークトル(Gígjökull)とステインホルツヨークトル(Steinsholtsjökull)の二つの舌氷河を持っているが両方共に氷河の先端部には潟湖があり、氷河から崩落した流水が浮かんでいます。



バスは15時30分にクヴォルスヴォットルに到着し、ここで15分間停車します。ラングアウルヴェトリル平野のほぼ中央部に位置する人口680人の小さな町。住民の多くは周辺が肥沃な農業地帯である関係で、農業従事者。ヘットラ同様に若いコミュニティで町の起りは1932年。サガの傑作「ニャールのサガ」の舞台となっていることもあってヴァイキングや「ニャールのサガ」に関する研究が熱心に進められており、展示の施設もあります。ニャールのサガにまつわるスポットを巡るツアーもあります。

その後バスはヘットラ、セルフォスを経由してクヴェーラゲルジ(Hveragerði)へ。温泉の町そして花の町として知られているクヴェーラゲルジは、パワフルな地熱地帯の端っこに位置している人口2,284人の町(2008年1月)。町がある一帯の地下深くには裂け

目や断層があり、アイスランドでも最大級の高温地熱地帯のひとつであるヘインギトル火山地帯から熱湯が流れ込んでいます。クヴェーラゲルジの地下の断層には深さ125mの地点に180 の熱湯群があります。1929年、この地に初めて住居が建築された



時以来、果樹や野菜を地熱利用のグリーンハウスで栽培することでこの町は発展してきました。地熱を利用したグリーンハウスがずらりと建ち並び、アイスランド最大のグリーンハウス・センターとなっています。町の真北にはグリータ(Gríta)という間歇温泉があります(ただし、噴出の間隔はかなり長い)。エデンはこの中心で総面積は4000平方メートルにも及ぶ広大なものです。建物の内部はアイスランドの伝統的な木彫が施されており、中にはタックス・フリーの民芸品店、カフェテリア、グリル、アイスクリーム・パーラー、フローリストなどがあり楽しく過



ごせませ。地熱温泉を利用した実験用グリーンハウスが併設されており、サボテンやコーヒーなどおよそ極北の地に馴染まないトロピカルなプラントまで栽培されていて大変興味深いところ。ここでのアイスクリームは名物で是非トライしてみてください。

バスは16時30分にクヴェーラゲルジに到着します。バスストップはシェル石油の給油ステーションの前になります。

ここからはタクシーに分乗してゲストハウス・フロスト&フーニ(Guesthouse Frost & Funi)に向かいます。バスストップからは「熱い(温泉の)川」を意味するヴァルムアウ川の堤防沿いに建つゲストハウス・フロスト&フーニへの所要時間は数分です。

ゲストハウス・フロスト&フーニは小奇麗な装いの全14室。家庭的な雰囲気が受けています。ゲストハウスには周辺の温泉を利用した天然の温泉プール(12m)、露天風呂、サウナが備わっています。静寂この上ない大自然の中で、温泉に浸かりながらオーロラ鑑賞を...ユニークな体験が期待できます。



夕食に関して: ゲストハウス・フロスト&フーニでは朝食のみのサービスで、昼夕食はとれません。夕食はクヴェーラゲルジの中心エ



デン・グリーンハウス(Eden Greenhouse)のすぐ傍にあるホテル・オルク(Hotel Örk, Tel: 483-4700)にておとください。ゲストハウスからはタクシーで数分。ゲストハウスにてタクシーを頼んでください。料金は片道ISK700程度。夜は、オーロラハントにチャレンジしてみてください。ホテル・オルクのあるあたりは町明かりがかなりありますが、ゲストハウスの周辺はほとんど暗闇状態になります。空が澄み切り、星が見えるほどに晴れていれば絶好のオーロラ・チャンスです。ゲストハウスのスタッフに状況を訊きながらトライしてみたいと思います。

「熱い温泉川」を意味するヴァルムアウ川の堤防沿いに建つゲストハウス・フロスト&フーニ



アイスランド到着4日目：8月28日（木）

日の出	05:59
日の入り	20:59

クヴェーラゲルジ～ゴールデンサークル～レイキャヴィーク

9時00分にタクシーにてゴールデンサークルツアーが発する N1 給油所(N1 Gas Station)へ向かいます。朝食とチェックアウトを済ませてゲストハウスのロビーにご集合ください。N1 給油所(N1 Gas Station)はホテル・オルクの直ぐ近くにあり、日本のコンビニに似た食糧品や飲み物、雑貨そしてアルコール類の販売をしています。

レイキャヴィーク・エクスカーション社(Reykjavík Excursions/Kynnisferðir)のツアーバスは9時にレイキャヴィーク市内のBSIバスターミナルを出発し、9時30分頃にはクヴェーラゲルジに着きます。バスはN1 給油所(N1 Gas Station)前に停まります。

このツアーバスに乗車いたします。アイスランドの観光スポットの中でも最もポピュラーな間欠泉ゲイシール、黄金の滝グルトフォスそしてシクヴェトリル国立公園を巡るゴールデンサークル観光へ出発します(英語ガイドになります)。



先ず、ケリズ火口湖(Kerið)へ。



ここでは下車観光します。

グリームスネス地区 (Grímsnes) にある約3千年前の噴火でできた古いクレーターで、直径200 m。火口の底は深さ55メートル、深緑色の火口湖の水面と赤褐色の灰と溶岩とでなる内壁面のコントラストが幻想的な光景を醸し出しています。チャルトナルホウラル(湖のある丘)と称される火山丘陵群の一部で、ケリズの北東寄りには広域に及び探

石の結果、小さくなったセイジスホウラルと呼ばれる別のより大きい火口群があります。グリームスネス地区の溶岩のほとんどはこれらの火口から流出したもの。クレーターの縁の小径を歩いて一周でき、小径の最も高い地点からは他の小さなクレーター等の良い眺めが楽しめます。夏にはここでコンサートが開かれることもあります。

更に、アイスランドで最初の主教管区があったスカウホルト(Skáholt)へ。1056～1796年のほぼ700年にわたって政治、宗教、文化そして教育の中心として權威をふるった歴史的な背景をもつ町です。この間、1550年の宗教改革までに31人のカソリックの司教が、その後13人のルーテル派の司教が(合計44人の司教)がここで奉仕活動をしていました。現在の教会は1967年に全面的に建て替えられたもの。装いは新しくなったが、附近の住居や学校に通じるトンネル等往時の痕跡も残っています。ここは車窓での説明だけになる場合があります。



そして、黄金の滝グルトフォス(Gullfoss)へ向かいます。ここからは約1時間30分の所要です。ツアーバスはグルトフォスでは滝を見渡せる広い駐車場にパークします。ここでは通常30分ほど

停車します。滝の直ぐ近くまで歩いて行くことができますが、滑りやすいので充分気を付けてください。

グルトフォスはアイスランド一番の華麗さを誇る迫力満点の滝、黄金の滝。2番目に大きな氷河ラングヨークトルから流れ出る大河クヴィートアウのたわわな水量が幅70m、1段が15～30mの高さの階段状になっている幾重の溶岩層を白い水煙をあげながら渓谷に流れ落ちる様は豪快そのもので迫力満点。特に、虹がその上にかかったときは、名前の由来通りその光景は黄金色に染まります。滝が流れ落ちた滝壺から悠々と流れ続ける大河の両壁は溶岩層の大渓谷になっており、勇壮な一大パノラマを形成しています。パーキングエリアの左手には板作りの階段があり、そこを昇ると高台があってそこにはグルトフォス記念館(ここをダムにしようとして滝周辺の利権を獲得しようとしたバイヤーとそれを阻止した勇敢な女性シグリーズルを記念して建てられたもので、トイレもあります)があります。ここからグルトフォスの滝とその周辺が一望できますが、ここに行く場合にはバスの出発時間に遅れないように十分注意してください。



更に、グルトフォスから10kmに位置するゲイシール(Geysir)へ。昼頃にゲイシールに到着です。ゲイシール一帯と道路を挟んでホテル・ゲイシール(Hotel Geysir)とホテルが運営するスーヴェニアショップがあります。この付近にバスはパークします。

先ずホテル・ゲイシールのレストランにて昼食を摂ります。昼食代はオプションツアーの料金には含まれていません。予算的にはアラカルト(ISK1,700程度)、ピュッフェでISK2500程度です。又、スーヴェニアショップの隣にはスナックショップがあり、ハンバー



ガーやホットドッグ、サンドウィッチなどが売られていますのでここで済ませることも出来ます。

ゲイシールはアイスランドのシンボリック存在の間歇泉。アイスランド語で噴出を意味し、英語の間歇泉(Geyser)の語源です。ゲイシール間歇泉はかつて60M - 70Mの高さまで噴き上げていましたが、1915年以降は休止状態が続き、1935年になって再び活動を開始したものの数年で休眠状態となっていました。しかし、2000年6月17日と21日に南部地帯で大きな地震が発生したからでしょうか、突然、活動しびっくりさせられました。現在でもほとんど毎日のように噴出を続けていますが多くても1日数回で、高さも数メートルでかつての栄光を取り戻すまでには至らず現在は再び休眠しています。ゲイシール以外にも10個以上の間歇泉がここにありますが最も活発に活動しているのが1963年からゲイシール・エリアの主演となったストロククル間歇泉(Strokkur)。ストロククルはアイスランド語では「攪拌」を意味し、1789年の地震の際に出現した間歇泉。7~8分毎に30mの高さまで豪快に噴きあげています。その自然の営みをすぐ傍で見学します。温水が地熱(120℃)で高温状態になり底部(約23Mの深さ)が沸騰し、瞬時のうちに蒸気となりその蒸気圧が水圧に勝って溝の上部の熱湯が突然噴き上げる現象です。豪快な様を目の当たりに観察できます。見学の際には間歇泉の風下には絶対立たないようにしてください。

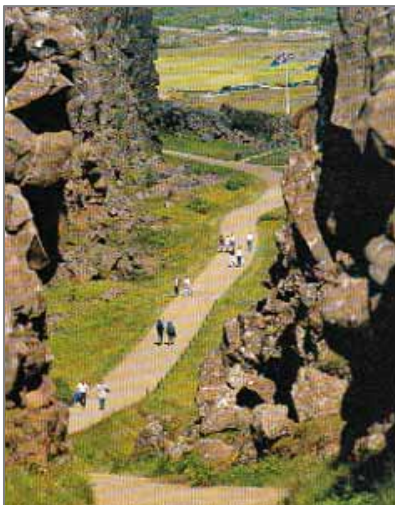


ゲイシール、ストロククル以外にもオウセルリスホーラ(Óperrishola、雨乞い師)、リトリ・ゲイシール(Litli-Geysir、小ゲイシール)、リトリ・ストロククル(Litli-Strokkur、小ストロククル)など名前が付けられている小さな間歇泉がありますが噴出はほとんどしていません。ただ、オウセルリスホーラ間歇泉のみは気圧が低いときに何回か小さな噴出を起こすことがあります。ゲイシール近くにあるコヌングスクヴェール(Konungshver、王様の温泉)とブレシ(Blesi、保温鍋)は2000年6月の地震の後に沸騰した熱湯を50cm~1mまで噴き上げる姿が見られる事があります。

スナックショップやギフトショップに隣接して、アイスランドの地質に関する興味深い展示が見られるゲイシール・センターがあります。氷河、火山、地震そして地熱等に関する博物館です。移住時代からの民族的展示物も陳列されています。氷河が崩壊する様や氷河と火山の相互作用によって形成された地勢など自然の摂理が創造した世界の紹介にこの博物館のコンセプトはおかれています。

その後、アイスランドヴァイキングによる世界最初の民主議会が開催され「民主議会の母」と称えられる聖地シンクヴェトリル国立公園へ。この間の所要時間はおよそ1時間です。

シンクヴェトリルが一望できるビューポイント・ハキーズ(Hakið)にツアーバスは停まります。先ずはギャウの一番高い地点から活きている島を実感してください。ハキーズのすぐ傍にはシンクヴェトリルがより理解できる「シンクヴェトリル・エキジビジョンセンター」があり、双方向性マルチメディアによるエキジビジョンが楽しめます。シンクヴェトリルの自然や歴史を大きなTVモニターで理解することができるようになっています。センター内のエキジビジョンは4月1日から11月1日の9時 - 17時にオープン。入場は無料。時間があれば覗くことができます。



シンクヴェトリル国立公園(Pingvellir)は西暦930年、アイスランドヴァイキングによる世界最初の民主議会が開催され「民主議会の母」と称えられる聖地です。ここでは、地球の割れ目とも云われる壮大なギャウを目の当たりに観察することができます。アイスランドは大西洋中央海嶺の延長上にあり、海嶺のてっぺんには幅数10kmの地溝帯があります。この地溝帯は地球の内部から上がってきたマントル対流がその下で左右に分れ、水平に進む為にできた割れ目(ギャウ)ですが、通常地溝帯は海面下1~2Kmにあるために、地上で見るとは難しいのです。しかし、世界で2箇所のみ海嶺が地上に乗り出しているところがありそのひとつがアイスランドです。幾つかある中で最も有名なギャウをここシンクヴェトリルで見ることができます。一つひとつの割れ目は長さ数キロ、幅も地表面からの深さも30m程度ですがこのような割れ目が雁行して延々と連なってアイスランドをほぼ南北に貫いています。

アイスランドは2つのマントル間の陸地として中央大西洋海嶺の軸の上に、活発な火山活動と広く符合しながら過去20~25百万年に亘って成長し続けてきた島です。地球の深部で発生するマントル上昇流の上にある熱い表面であるアイスランドは、世界の他の如何なるところより速いスピードで大量の火山物質を溶岩として蓄積し、ギャウ(Gjá 割れ目)を広げることで大きくなり、更に軸上になったギャウ・ゾーンに沿って発生する火山活動によって付着成長を続けています。中

中央地溝帯の中心へ絶え間無く新しい溶岩が蓄積されて前の溶岩が水平に押しやられ、中央地溝帯を境目にアイスランドは東と西に向けて成長を遂げているのです。その成長のスピードは1年に東西夫々に1～1.5cm、合計2～3cm。このようにアイスランドの国土は広がり続けており、まさに活きている島の壮絶な光景を目の当たりにします。ギャウを境に、アイスランドの西の部分は北米大陸プレートに属し、東の部分はユーラシア大陸のプレートに属しています。シンクヴェトリルの西端に位置する長い溶岩割れ目断層アルマンナギャウ(Almannagjá)の西の一角は高い絶壁で、最高地点からシンクヴェトリルの全景とギャウの壮絶な眺望を観察した後、ギャウの割れ目の間を低い断層となっている東端へ向かって徒歩観光します。この間約20分、ユーラシア大陸とアメリカ大陸のプレートが出会う谷間の両壁の不思議な自然の造形に心が奪われそうです。途中、旗竿が立っているところを通りますがここは古代民主議会アルシングで最も重要な場所だった「法律の岩」があったところと言われています。「法律の岩」には誰でも進み出て、重要な案件についてスピーチしたり、重大な事件をニュースとしてリポートしたところ。議会の開会や閉会の宣告もここでなされたし、又、法議会による判決が言い渡され、会議の日時が確認され、法行為がもたらされ、更には他の国事に関するあらゆることがここで発表され、議会に参席している誰もが「法律の岩」から重要事項に関する自分の告語を提出することができたのです。「法律の岩」で起きた出来事は後になってアイスランド・サガ書に記述して残されています。



地溝帯とシンクヴェトリル:

アイスランドは中央大西洋海嶺の地溝帯(ギャウ)の両側に跨るように横たわる島である。中央海洋地溝帯でその海嶺が地表に乗り上げている部分が最大規模である故に、地球上の中央海洋地溝帯の最も肝要な部分をなしていると言える。この様にアイスランドの地形における顕著な特徴は、北部においては北から南の方向に、南部においては北東から南西の方向に走る割れ目(ギャウ)である。



1950年代に入って、海底測量によって大洋の海底には巨大な海嶺があることが分かった。今や常識的にもなったプレート造溝理論=プレート・テクトニック(地球の表層部を構成している幾つかの大きな岩板=プレートが水平方向に移動することによって種々の地殻変動が起きるといふ学説)によれば、地震や火山活動は海嶺の軸の上に発生している。そこでのプレートは幾つかに分岐をし、新たな海洋の流れを創り出している。大西洋中央海嶺の軸がアイスランドのほぼ中央部を南西から北西にかけて貫いており、海嶺のてっぺんには地溝帯と呼ばれる割れ目の谷(ギャウ)がある。アイスランドの南西部に向かって走るレイキャネース地溝帯と北に向かってグリーンランドとノルウェーの間にある火山島ヤン・マイエンの方向まで続くコルベインスエイ地溝帯がそれである。大陸移動説は地球の磁場の極性が周期的に逆転し、磁気計の調査により判明したのだが、大洋流の岩石が液状の玄武岩が変じて溶岩石になる

際、その磁化を失わずにそのまま保有していることが分かっている。アイスランドは上記2つの地溝帯間の陸地として中央大西洋海嶺の軸の上に、活発な火山活動と広く符合しながら過去20～25百万年に亘って成長し続けてきた島だ。地球の深部で発生するマントル上昇流の上にある熱い表面であるアイスランドは、世界の他の如何なるところより速いスピードで大量の火山物質を溶岩となって蓄積している。ギャウ(割れ目)を広げることで大きくなり、更に軸上になったギャウ・ゾーンに沿って発生する火山活動によって付着成長を続けている。中央地溝帯の中心へ絶え間無く新しい溶岩が蓄積されて前の溶岩が水平に押しやられ、中央地溝帯を境目にアイスランドは東と西に向けて成長を遂げているのだ。その成長のスピードは1年に東西夫々に1～1.5cm、合計2～3cm。ギャウを境に、アイスランドの西の部分は北米大陸プレートに属し、東の部分はユーラシア大陸のプレートに属している。こうしたギャウはアイスランドの何ヶ所かで見ることができるがその最大規模はシンクヴェトリルにあるアルマンナギャウ。シンクヴェトリルの西端に位置し、長い溶岩割れ目断層で西の一角は高い絶壁になっており、最高地点からシンクヴェトリルの全景とギャウの壮絶な眺望を観察することができる。ギャウはミールダルスヨークトル氷河の麓にあるエルドギャウ、ミーヴァトン湖近くのグリュウタギャウでも観察できる。

シンクヴェトリルが2004年7月7日、中国の蘇州で開催された世界文化自然遺産保護に関するユネスコの世界遺産委員会においてユネスコの世界遺産に登録された。シンクヴェトリルを保護する事は全人類に多大なる恩恵をもたらす、極めて普遍的な価値があるものと確認された結果である。シンクヴェトリルは国立公園として国の保護監理下にあるが、独立国家の聖地としてアイスランド国民の最も敬う存在である。文化的且つ歴史的な意義の側面に加えてそのユニークな自然環境とユーラシア大陸と北米大陸の構造プレートに跨る境界線としての極めて珍しい地質(地溝帯ギャウ)で世界遺産に登録されたものである。

シンクヴェトリル観光後レイキャヴィークへ。所要時間は45分です。ツアーバスがホテル・ロフトレイズルまで送ってくれます。ホテル着後再度チェックイン。